

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	河川情報事業			会計	款	項目	大	小
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	河川課				
施策	2-3	自然災害・都市災害への備えと予防	主管課長	池田 輝昭				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	三輪野山地区 南流山地区	意図	和田堀都市下水路、準用河川神明堀（流山1号幹線）の水位をリアルタイムで監視し、予測される降雨状況に応じた体制をとる。
事業内容	和田堀都市下水路、準用河川神明堀（流山1号幹線）、及び流山排水機場前の水位監視装置の保守及び点検を行うものである。			
事業開始から現在までの状況変化	浸水被害が懸念される三輪野山地区及び南流山地区に水位監視システムを設置し、24時間体制で水位観測を行い、迅速な水防活動が可能となった。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	通報回数	17	18	15	回	↓↓↓
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

- ・河川課職員全員が携帯電話で、水位警報を受信することが可能となったため、早期参集が可能となった。

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）

三輪野山地区及び南流山地区の水位監視システムにより、集中豪雨に対し、早期な水防活動ができる。

事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	430,392	430,194	435,323
事業費(b)(円)	293,092	295,954	303,483
うち一般財源	293,092	295,954	303,483
職員給与費(c)(円)	137,300	134,240	131,840
人役・職員(人)	0.02	0.02	0.02
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	・水位監視システムの有効を検証する	③取組における課題(Check)	・水位監視システムの脆弱性への対策を行う。
②H30に実施した取組(Do)	・通報装置の現地検証を行った。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	・水位監視システムのパソコンの更新を実施する。 ・降雨量に対する現地水位の経過について、検証する。